



磐陽祭での霧箱製作実習の様子

高専生が放射線の特徴やその影響を来場者に説明 原子力機構、福島高専の文化祭に参画

原子力機構は福島高専が開催した「磐陽祭」に、昨年度に引き続き参加した。今回は来場者からの放射線に関する質問への対応や「霧箱」を使った放射線の観察結果の紹介を行ったほか、「移動式全身カウンタ車」及び「移動式ラボ」を会場へ持ち込み、来場者の内部被ばく検査や環境試料の測定などを行った。なお、原子力機構の職員は霧箱や内部被ばく測定などを担当する高専の学生達に対して事前にさまざまな講義と操作実習を行い、当日の装置の紹介や操作は主に福島高専の学生が手がけた。

「磐陽祭」は福島高専が毎年、実施している文化祭で、今年度は昨年11月2日に開催された。原子力機構は高専機構と協力協定を結んでおり、これにもとづいて企画に参加した。

その企画の柱の一つが、霧箱の紹介。磐陽祭当日は、原子力機構の職員から事前に講習を受けた担当する学生が来場者に霧箱の原理、簡易な実験と合わせて放射線の特徴を説明



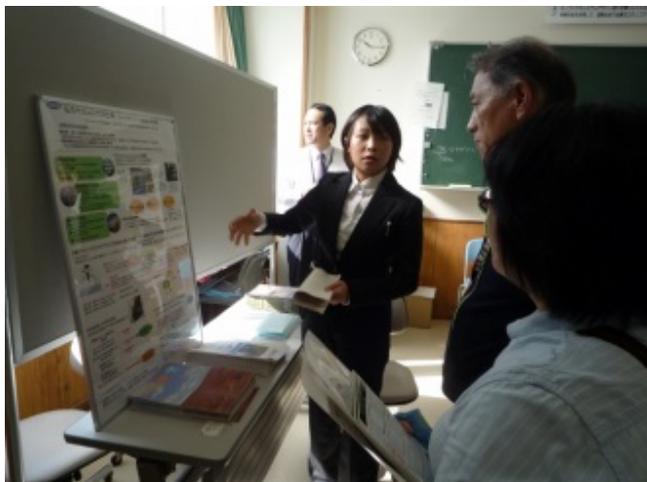
した。その隣でも学生達が、参加した子どもたち約100人と霧箱の製作を手伝った。霧箱の説明を担当した学生は、大洗で開催された「放射線取扱実践講座」も受講した経験があり、実験操作や質問に的確に対応していた。(写真左上)



また、「移動式全身カウンタ車」は、体表面モニタと内部被ばくを測定するホールボディカウンタ(WBC)を搭載している。身近な公共施設などにおいて短時間に内部被ばくを測定できるため、福島県民の内部被ばく検査でも活躍している装置だ。担当した学生達は前日に内部被ばくに関する講習や測定に必要なパソコン操作を学び、当日は交代で来場者に対して装置の説明や約40人の測定を行った(写真左中)。測定後の結果については機構職員が説明し、質問に答えた。WBCによる内部被ばく測定を受けていない保護者や地元の方々が

受付に並び好評だった。ゲルマニウム半導体測定器を搭載している「移動式ラボ」では、学生が来場者とともに土壌や水の測定を体験した。

当機構から今年の磐陽祭に参加したのは福島研究開発部門の福島環境安全センターや福島廃炉技術安全研究所、大洗研究開発センターの福島燃料材料試験部の職員。当日は放射線の影響をはじめ、福島県民を対象とした健康調査や、放射性セシウムが土壌中での移行挙動などを調べる環境動態研究、福島第一原子力発電所の廃止措置に向けた研究の内容などについて、来場者からの質問に答える



(写真左下)とともに、さまざまな企画を担当した学生らをサポートした。

原子力機構は国立高等専門学校機構・福島高専との連携協力協定に基づき、原子力安全分野、復興からの人事育成について、人的交流、講師・専門家の派遣、高専生に対する講義・実習などに協力している。磐陽祭への参画は、そうした取組みの一つ。

今回は学生自らが事前の実習を通して身につけた知識や思いを一般の来場者に説明した。身近で学生らが実験や難しい放射線について説明することで放射線に関する理解の促進や不安の解消につながったのではないかと思う。多くの来場者が学生らの実験や説明に感心し、「自然や身の回りに放射線が飛んでいることが分かった」「 α 線は容易に遮蔽できることが実験で分かった」「ありがとう」という声が多く聞かれたからだ。はじめて WBC による内部被ばく検査を受けた方々も安心していただいたようだ。原子力機構は、これからも学生らの取り組みを応援していきたい。そして、福島原子力災害からの復興に貢献する事業や研究開発に従事する人材が育ってくれることを期待している。

TOPICS 福島 No. 62

独立行政法人日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 福島事業管理部

〒960-8031 福島県福島市栄町 6-6 NBF ユニックスビル 1 階

TEL : 024-524-1060 FAX : 024-524-1073 HP : <http://fukushima.jaea.go.jp/>